日本語学習者に必要な感謝表現と感謝場面についての語用論的指導

－日本とスリランカの教科書における感謝に値する場面の会話分析を通して－

S.M.D.T. ランブクピティヤ

要旨

スリランカ人日本語学習者の感謝に値する場面についての理解及び感謝の言語表現についての使用は中間言語的なものであり、その原因の一つはスリランカで使用されている日本語の教科書にあると考えられる。そこで本研究では､スリランカで開発･出版され、高校生を対象としている教科書『スリランカ高校日本語Ａレベル サチニさんといっしょ』Part １と２から、日本語母語話者なら言語で感謝を表すだろうと考えられるが感謝表現が見られない会話場面を、①先行研究の指摘と参照、②日本で出版された教科書の類似した会話場面と比較、③日本語母語話者の意見の収集という３つの方法で分析した。分析の結果､教科書の改善に重要な点として､『サチニ』には、場面を理解するために必要不可欠な人間関係、場、状況設定などについての情報が不足していること、感謝を表す場面で見られる謝罪型表現の記載がないこと、感謝を課題として扱っていないことを明らかにした。

キーワード：感謝表現、教科書分析、日本語教育、スリランカ、コミュニケーション

1.　はじめに

相手との親疎関係（ランブクピティヤ 2014c)、感謝を表す場の私的･公的度合（ランブクピティヤ 2014b)、感謝に対する行為の当然性（ランブクピティヤ 2017）などの要因に影響され、スリランカ人シンハラ語母語話者[1]（以下、SNS）の感謝の言語表現の使用頻度は日本語母語話者（以下、JNS）より少ない。例えば、相手との関係が親しいと意識した場合、SNS が口頭での感謝を控える（ランブクピティヤ 2014c)。一方で、スリランカ人日本語学習者（以下、SLJL)[2] の感謝の言語表現の使

用及び感謝に値する場面（以下、感謝場面）についての理解は、JNS にも SNS にも似ていない中間言語的なものである（ランブクピティヤ 2018）。

これらのことから、できるだけ母語による影響を避け、JNS と円満なコミュニケーションができるようになるには、SLJL に対する日本語の感謝表現についての指導が重用だと考えられる。その際に、スリランカで使用されている教科書に載っている感謝についての内容も重要であるため、本稿では、教科書分析を試みる。

2. 教科書の感謝場面・表現についての先行研究と問題提起

2.1 スリランカで出版された教科書における感謝表現についての研究

教科書における感謝表現や場面どころか、スリランカで開発され使用されている教科書自体もほとんど研究の分析対象になっていない。青沼(2009)は、スリランカでは、教科書の開発が進んでいないと言う。これが教科書分析が行われていない第一の理由だと言える。そこで本節では、スリランカで開発された日本語の教材に関連があるような先行研究を示し、感謝についての内容でも想定可能な問題点を提起する。

宮岸（2000）は、SNS 日本語教師と SLJL に、スリランカの高校で使用されていた教科書 Pupils' Textbook for Japanese G.C.E.(A/L)（1996）を 5 段階で評価してもらい、それに加えて自由記述形式の質問調査も行っている。調査結果では、教科書は分量が多く、SLJL にとっては難しいが、両文化の理解には役立つと結論付けられている。しかし、コミュニケーション重視ではなく、読解中心であるという理由で、現在、現場ではこの教科書が使用されていない。

岸（2011）は、スリランカの大学で行われた日本語教育実習の報告であり、その際に使用された教科書の問題点として、文法知識が不足している SLJL にとっては難しく、イラストが少ないため、SNS 日本語教師にとっても扱いにくいが、日本・日本文化を知るきっかけになるような重要な役割を果たしていると指摘している。

これらの指摘から、日本・日本人の文化や考え方を学習内容として指導する必要性について改めて認識できる。感謝表現の指導についても同様のことが言えるため、今後、教科書における感謝表現の指導内容について、具体的に調べる必要がある。

2.2 スリランカ以外の国で出版された教科書における感謝表現についての研究

スリランカ以外の国で出版された教科書における感謝表現を分析した研究には、中道ほか（1994）、西（2006）などがある。感謝表現に特化せず、教科書全体を分析した研究には、中道ほか（1999）、等々力（2002）、徐（2010）などがある。

中道ほか（1994）は、日本語教育では感謝表現の代表的なバリエーションを教えることに留まらず、感謝は「課題」、「方略」、「単位方略」[3] として扱い、それぞれの表現はどのような単位方略の実現として、どのような場合に選択されるかを教える必要があるが、感謝を課題として扱い、その方略の構造を示した教材は非常に少ないと述べている。この指摘から、スリランカの教科書でも感謝表現がどのように扱われ、方略・単位方略が具体的なものとなっているかについて調べる必要があると考えられる。

中道ほか（1999）は、日本語教育現場で「あいさつ」がどのように扱われているかを調べる目的で教科書分析を行っている[4]。調査の結果、全ての日本語教科書において、学習項目として「あいさつ」を取り上げているが、その指導法の説明や実践報告などが少ない、一般的な指導としては日本語コースの始めに行う口慣らしとしての挨拶が多い、会話練習中でも付随的な扱いに留まることが多いと指摘している。これらは感謝表現の指導についての重要な指摘であり、スリランカの教科書における感謝表現にもどの程度適合するかを検討すべきであろう。

等々力（2002）は、『新文化初級日本語』のⅠとⅡを、日本語教育に欠かせない「言語能力」「社会言語能力」「社会文化能力」[5] の育成及び接触場面[6] の取り上げ方という観点から分析している。結論では、日本の社会や文化を知らなければコミュニケーションを行うことは難しいため、社会や文化の知識そのものも教える必要があり、教科書における場面を言語教育・社会言語教育・社会文化教育の全ての観点から網羅し、体系的かつ重要な全要素を含むものにしなければならないと述べている。従って、スリランカで開発されている教科書でも、どのようにこれらの教育を重視した上で、それぞれの場面を取り上げているかを分析する意義があると考えられる。例えば、上述した教育を重視するように感謝場面を記載しているかを分析することであり、よって、教科書の問題点が明確になり、教科書の改善にもつながると考えられる。

西（2006）は、教科書における感謝の応答表現を調査し、教科書では極めて早い段階で基本的な「あいさつ」表現が提示され、重要な項目として捉えられているが、どのような場面でどのような表現が使用され、どのような人物に対して、どのように述べ、どう返答すべきかなどの具体的かつ一歩踏み込んだ指導がほとんどなされていないと言う。西は、感謝の応答表現に注目した点は画期的であるが、スリランカの場合、感謝の応答表現のみではなく、感謝表現そのものも分析対象になっていないのが課題である。

徐（2010）は、日中中級日本語総合教科書の比較分析を行い、教科書に語用論的能力[7] の育成という目標を達成できるような内容が盛り込まれているかを検討している。分析の結果、日本の教科書と比べて中国の教科書では、「普通体」を選択するための根本的な情報である「人間関係」・「場」・「状況設定」を意識した記述がなく、文型積み上げを目指した構造シラバスと形式を重視したオーディオ・リンガル法による教授法が多いと述べている。その結果、学習項目を提示する談話における機能についての言及や指導が少ないと指摘している。この語用論的能力は、感謝場面での会話にも欠かせない（ランブクピティヤ 2014a、2014b、2014c、2017、2018）ため、スリランカの教科書にも当てはまるかどうかを検討することは有意義であろう。

既述した通り、スリランカで開発されている教科書の数が少ないからこそ、現在使用中の教科書を分析し、今後の教科書開発や SLJL のコミュニケーション能力の育成に役立てることが重要だと考える。そのため、本稿では、感謝の観点からスリランカの教科書の分析を試みたい。

3. 研究目的

スリランカでは、十分な教科書分析が行われていないため、教科書全般の分析も、項目ごとの分析も同様に必要である。ただし、筆者の従来の研究では、JNS、SNS、SLJL を対象に、感謝場面についての理解及び感謝の言語表現の特徴について検討されている。そのため、教科書を改善し、SLJL の指導に役立ちたいと考え、本研究では、感謝場面と感謝の言語表現に焦点を当て、スリランカの日本語教科書を日本の教科書と比較分析を行い、スリランカの教科書における感謝場面及び感謝の言語表現の（1）扱い方、（2）それらに見られる問題点・課題を明らかにする。最終的に、それらの改善点を提案したい。

4. 研究方法

4.1 対象教科書

本調査では、スリランカで開発・出版され、現在使用中の日本語の教科書と日本で開発・出版された教科書を比較対象とする。

現在、スリランカで開発・出版され、使用中の教科書に『スリランカ高校日本語 A レベル Part1 サチニさんといっしょ』（以下、『サチニ 1』）と、『スリランカ高校日本語 A レベル Part2 サチニさんといっしょ』（以下、『サチニ 2』）の 2 冊しかないため、本研究ではこれらを対象とする。本稿では、『サチニ 1』と『サチニ 2』を総合的に

扱う場合、『サチニ』と呼ぶ。

『サチニ』は、国際交流基金から派遣されたJNS教師の監修のもとで、SNS日本語教師が中心となって、2010年に開発された唯一の初級総合教科書であり、中等教育機関の高校生を対象としている（図1）。コミュニケーション能力の育成を目的とし、文法シラバスを中心に積み上げ方式で作成されている。

図1　現在、スリランカの高校で使用中の日本語の教科書、『サチニ』の表紙

『サチニ1』は全12章、『サチニ2』は全8章から成り、一つの章は、4～5課及び全ての課のまとまりの「Brush up・ブラッシュアップ」でできている。各課は、‘Aim’（目標）、‘Warming up’（ウォーミングアップ）、‘Words, Tune in’（語彙、フレーズ）、‘Focus on’（文型、例文）、‘Grammar notes’（文法事項の解説）、‘Practice’（練習）、‘Use’（使用）という構成となっている。

比較するには、『サチニ』と同性質のものが良いとし、日本で開発された教科書にも初級総合教科書のみを選択した。ただし、日本で出版された初級総合教科書の数が多いため、武田（2008）と足立（2006）を参考に[8]、以下の6つの教科書を選んだ。

1. 『みんなの日本語初級Ⅰ』、スリーエーネットワーク
2. 『みんなの日本語初級Ⅱ』、スリーエーネットワーク
3. 『文化初級日本語Ⅰ』、文化外国語専門学校
4. 『文化初級日本語Ⅱ』、文化外国語専門学校
5. 『初級日本語　げんき　Ⅰ』、ジャパンタイムズ
6. 『初級日本語　げんき　Ⅱ』、ジャパンタイムズ

本稿では、『みんなの日本語初級』ⅠとⅡを『みんな』、『新文化初級日本語』ⅠとⅡを『新文化』、『初級日本語　げんき』ⅠとⅡを『げんき』と呼ぶ。『みんな』は、やさしい文法項目から難しい項目へ進むように、文型積み上げ方式に作成された教科書である。『文化』は、言語運用能力を重視し、場面や状況を中心に、『げんき』は、文型積み上げと言語運用の両方に焦点を当てて作成された教科書である。

4.2　具体的な調査方法

本調査は、図2の手順に従い、2014年の4月～同年の10月にかけて行った。

手順1では、コミュニケーション能力[9]の育成を目指していると述べているため、『サチニ』から、文型の導入・練習を目的とした短い会話を除き、感謝に値する場面だと考えられるモデル会話と応用練習を目的とした全会話を抽出した。

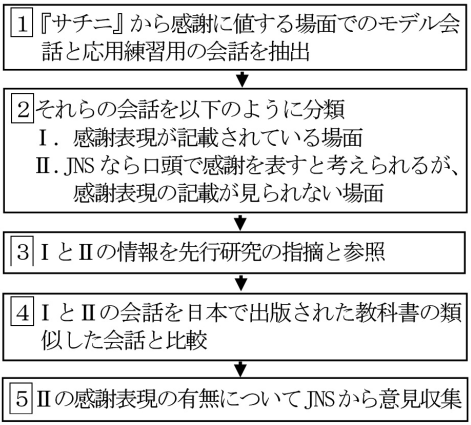

図 2　具体的な調査方法

手順2では、1で抽出した会話をⅠ．感謝表現が記載されている、Ⅱ．JNSなら感謝を表すと考えられるが、感謝表現の記載が見られないという2種類に分類した。手順3では、ⅠとⅡの場面における情報を先行研究の指摘と参照しながら分析した。感謝場面の会話に特化して教科書を分析した先行研究は見当たらないため、ここでは、感謝表現も一種として扱い、教科書における待遇表現を分析している蒲谷ほか（1998）と松嶋（2003）を参照にすることにした。

蒲谷ほか（1998）は待遇表現の場合、話し手が文化的・社会的諸条件として「人間関係」、「場」[10]、「表現形態」などを認識しながら、「表現の意図」を伝達できるように適切な「文話」[11]を行っていると述べている。中国のビジネス日本語教科書における待遇表現を分析している松嶋（2003）は、日本人とのコミュニケーションを成功させるには、日本文化や習慣を知る必要があり、対人関係など教科書に記される内容が重要だと述べている。本分析では、これらの指摘を踏まえ、1で抽出した感謝場面については、「登場人物の関係」、会話を行う「場」、「状況設定」という語用論的な情報が記述されているか、（教科書の冒頭、各課の冒頭、会話の冒頭などの）どこに、どのように記述されているかを見ていった。

手順4では、1で抜粋した会話を日本で出版された教科書に見られる類似した会話と比較し、どの程度感謝表現が記載されているか、その相違点は何かを明らかにした。『サチニ』と同じく、日本で出版された教科書からも比較しやすくするために、文型提示やパターンプラクティスのみに使用している会話を除き、モデル会話と応用練習の会話のみを選択した。

手順5では、3で分類した会話のうち、Ⅱの感謝表現の記載が見られなかった会話をJNSに提示し、次の三つの点について自由記述形式で回答してもらった。

A) あなたならこれらの会話に感謝表現を挟むか挟まないか。
B) 感謝表現を挟むなら、会話のどの部分に挟むか。どんな感謝表現を挟むか。
C) 感謝表現を挟む理由は何か。感謝表現を挟まない場合は、それはなぜか。

この手順を設定した理由は、『サチニ』と類似しているような会話場面を日本で出版された教科書から見つけられなかった場合、JNS の生の声による意見を補足データとして使うことができるからである。JNS 被調査者は、20 代前半で、日本の大学を卒業後、社会経験をせずに日本の大学院に入っている女子学生 5 名だった（表 1）。

表 1 『サチニ』の会話に対する意見収集に協力した JNS 被調査者の概要

被調査者	現在の専攻（大学院）	大学での専攻	海外での経験の有無、国名（期間）
A	日本語教育	国際関係学	オーストラリア(10ヶ月)、中国(10ヶ月)
B	日本語教育	英語学	イギリス（3ヶ月）
C	日本語教育	朝鮮語	韓国（10ヶ月）
D	日本社会	東アジア言語文化	韓国（6ヶ月）、台湾（1年）
E	社会言語学	国際文化学	なし

5. 調査結果と考察

まず『サチニ』においては、どのような基準で会話が掲載されているかについて明確に見出しにくかったことを記す。つまり、ある課は文型練習だと考えられる簡単な練習のみで終わるのに対して、ある課は応用練習だと考えられるものまで続くなど、会話の掲載には一貫性が見られないということである。

本稿では、上述した調査のうち、『サチニ』から抽出した感謝の言語表現が見られないが、JNS なら口頭で感謝を表すだろうと考えられる会話についての調査結果のみを取り上げる。『サチニ』から、このような場面が 30 個抽出した。本稿では、振り仮名を外してそれらの会話を提示し、具体的な分析では、これらの会話場面における語用論的情報を検討し、日本で出版された教科書の類似した会話と比較分析を行う。その際の補足的データとして、JNS 被調査者から得たデータを扱う。

5.1 感謝表現が掲載されていない『サチニ』の会話場面についての分析

『サチニ』には、「悩み相談」というテーマで、事情を説明したり助言を受けたりすることを目的とし、「V た / ないほうがいいです」を学習項目とした課がある。その中には、「『留学生の悩み相談』先生と一緒にやりましょう」という活動があり、図

3のような絵を提示した後、以下の8つの会話（1サ）〜（8サ）が掲載されている。

（1サ） A : どうしたんですか。
B : 学校に友達がいないんです。
A : そうですか。じゃあ、クラブに入ったほうがいいですよ。
B : はい。じゃあ、そうします。

（2サ） A : どうしたんですか。
B : ホストファミリーの料理が好きじゃないんです。
A : そうですか。ホストファミリーに相談したほうがいいですよ。
B : はい。じゃあ、そうします。

（3サ） A : どうしたんですか。
B : ホストファミリーが話す言葉がわからないんです。
A : 大変ですね。でも、だんだん慣れるから、あまり心配しないほうがいいですよ。
B : はい、じゃあ、頑張ります。

（4サ） A : どうしたんですか。
B : 学校の勉強がわからないんです。
A : そうですか。じゃあ、先生に相談したほうがいいですよ。

（5サ） A : どうしたんですか。
B : 頭がいたいんです。
A : そうですか。じゃあ、保健室に行ったほうがいいですよ。
B : はい。じゃあ、そうします。

（6サ） A : どうしたんですか。
B : 授業中に眠くなるんです。
A : そうですか。じゃあ、早く寝たほうがいいですよ。
B : でも、面白いテレビ番組があるんです。
A : テレビはあまり長く見ないほうがいいですよ。
B : はい。

（7サ） A : どうしたんですか。
B : 友達に借りた本をなくしたんです。
A : そうですか。

B : 同じ本を買って、返したほうがいいですか。
A : ん…友達に聞いたほうがいいですよ。
B : はい。じゃあ、そうします。

（8 サ）A : どうしたんですか。
B : 財布を落としたんです。
A : そうですか。じゃあ、交番に行ったほうがいいですよ。
B : はい。じゃあ、そうします。

出典 :『サチニ 2』第 13-1 課「悩み相談」、練習、pp.6-7.

この会話では、「留学生の悩み相談」としているため、登場人物の B は留学生だと考えられるが、どこの国からどこの国へ留学してきた学生かが明確ではない。一方で、人物 A は先生か友達かがわからないが、これは先生と練習する活動となっているため、先生だと考えられる。また、それぞれの会話が行われる「場」についての情報も掲載されていない。つまり、（1 サ）～（8 サ）の会話を理解するのに必要不可欠な登場人物間の関係、場、状況設定などの具体的な情報提供が不十分である。

出典 :『サチニ 2』第 13-1 課「悩み相談」、練習、p.5.

図 3 『サチニ』の会話例〈1 サ〉～〈8 サ〉の前に掲載されている絵

これらの会話場面を日本で出版されている教科書の似たような会話場面と比較して見よう。「〜たほうがいいです」を学習項目とした『みんなⅡ』第 32 課の会話（9 み）では、A が B に直接助言を求めていないにもかかわらず、B の助言を受け、A が感謝を表出している。助言を受ける場面として、『みんなⅡ』には、ゴミを出す曜日を知る会話があり（10 み）、この会話の終結部にも助言をしてくれる人に対する感謝表現が見られる。

（9 み） A : 京都の紅葉を見たことがありますか。
B : ええ。
A : 来週行こうと思っているんですが……。
B : きれいですよ。でも、京都はちょっと寒いかもしれませんから、セーターを持って行ったほうがいいですよ。
A : そうですか。ありがとうございます。

出典 :『みんなの日本語初級Ⅱ』第 32 課、練習 C の 3、p.57.

（10 み） A : ごみの日を知りたいんですが、どうしたらいいですか。
B : 市役所に聞いたらいいと思いますよ。
A : そうですか。どうも。

出典 :『みんなの日本語初級Ⅱ』第 26 課、練習 C の 3、p.7.

『文化』にも助言を受ける会話があり、この場面では、留学生の「ラルフ」が先生に助言をもらい、最後に感謝を表出している（11 文）。「〜たほうがいいです」を主な文型としている『げんきⅠ』第 12 課にも助言を受けるような会話が 2 つあり、「みちこ」から助言をもらう会話では、「メアリー」が感謝を表出していない（12 げ）のに対して、医者にかかって助言を受けた会話では、感謝を表出している（13 げ）。

（11 文） 先生 : ラフルさんは来年どうしますか。
ラフル : 観光の勉強をするために、専門学校に行きたいと思っています。
先生 : もう学校を決めましたか。
ラフル : いいえ、まだ決めていません。たくさんあって、迷っているんです。
先生 : ふじ観光専門学校という学校を知っていますか。
ラフル : いいえ、知りません。

先生　　：来週、オープンキャンパスがあるから、行ってみませんか。
ラフル　：ええ、行ってみます。その時、募集要項ももらって来ます。
先生　　：それから、来月、池袋で留学生のための進学説明会がありますよ。進学説明会に行けば、いろいろな学校の先生と直接話せますよ。
ラフル　：わかりました。行ってみます。ありがとうございます。

出典：『文化初級日本語Ⅱ』第 9 課、本文「進学説明会に行けば、いろいろ質問できます」、p.27.

（12 げ）　みちこ　：メアリーさん、元気がありませんね。
メアリー：うーん。ちょっとおなかが痛いです。
みちこ　：どうしたんですか。
メアリー：きのう友だちと晩ご飯を食べに行ったんです。たぶん食べすぎたんだと思います。
みちこ　：大丈夫ですか。
メアリー：ええ、心配しないでください。……ああ、痛い。
みちこ　：病院に行ったほうがいいですよ。

出典：『初級日本語　げんきⅠ』第 12 課「病気」、会話、p.266.

（13 げ）　メアリー：先生、のどが痛いんです。きのうはおなかが痛かったです。
医者　　：ああ、そうですか。熱もありますね。かぜですね。
メアリー：あの、もうすぐテニスの試合があるので、練習しなきゃいけないんですが…。
医者　　：二三日、運動しないほうがいいでしょう。
メアリー：わかりました。
医者　　：今日は薬を飲んで、早く寝てください。
メアリー：はい、ありがとうございました。
医者　　：お大事に。

出典：『初級日本語　げんきⅠ』第 12 課「病気」、会話、p.266.

上記のように、日本の教科書でも感謝表現が表れる会話と表れない会話が存在する。ただし、その場合、医者→患者、友達→友達というような場面における登場人物間の関係が影響を与えていると考えられる。日本の教科書では、登場人物間の関係が明確に示されており、示されていない場面では、容易に想像できるような設定になっていると考えられる。『サチニ』の（1 サ）～（8 サ）の場合、登場人物間の関係が明確ではないため、どの程度感謝を表出すべきかを判断しにくいと言えよう。

（1 サ）と（2 サ）についての JNS 被調査者の意見を示す表 2 と表 3 からも、このことを証明できる。相談に乗ってくれ、助言をしてくれる相手が先生であるならば感謝を表出すると、被調査者が述べている。（3 サ）に対しても被調査者は同様の意見を持っているが、『サチニ』では、この相手が先生かどうかを明確にしていない。

表 2『サチニ』の会話例（1 サ）についての JNS 被調査者の意見

被調査者	感謝を挟むか否か	その理由	感謝を挟む場所
A	挟む（助言をする側が先生なら）	先生がアドバイスをしてくださったから	最後の B の発話の後ろに
B	挟む（助言をする側が先生なら）	目上の立場の人からアドバイスをもらったことへのお礼	最後の B の発話の後ろに
C	挟む（助言をする側が先生なら）	目上の立場の人がわざわざ悩みを聞いてくれ、アドバイスをくれる時間を設けてくれたから	最後の B の発話の後ろに
D	挟む（助言をする側が先生なら）	先生からアドバイスをもらったので	最後の B の発話の後ろに
E	挟まない	簡単な質問だけであるため	―

表 3『サチニ』の会話例（2 サ）についての JNS 被調査者の意見

被調査者	感謝を挟むか否か	その理由	挟む場所
A	挟む(助言をする側が先生なら)	先生が相談にのってくださったから	最後の B の発話の後ろに
B	挟む(助言をする側が先生なら)	相手が目上の立場の人である、助言をもらったことへのお礼	最後の B の発話の後ろに
C	挟む(助言をする側が先生なら)	目上の立場の人がわざわざ時間を割いてくれたから	最後の B の発話の後ろに
D	挟む(助言をする側が先生なら)	先生からアドバイスをもらっているので	最後の B の発話の後ろに
E	挟まない	簡単な質問で、得た情報もこれらだけであるため	―

一方で、日本で出版された教科書と同じく、感謝表現を発したり発しなかったりという現象が JNS 被調査者のデータからも明らかになる。例えば、『サチニ』の会話（4 サ）に対して、感謝を表出しない被調査者が 4 名で、感謝を表出する被検者が 1 名である（表 4）。

表 4『サチニ』の会話例（4 サ）についての JNS 被調査者の意見

被調査者	感謝を挟むか否か	その理由	挟む場所
A	挟まない	この時点では、まだ何も解決できていないから	―
B	挟む （助言をする側が先生なら）	相手が目上の立場の人である、助言をもらったことへのお礼	最後の B の発話の後ろに
C	挟まない	具体的に勉強を教えてもらって悩みの解決に協力してくれたわけではないため	―
D	挟まない	勉強を教えてもらったわけではないため	―
E	挟まない	簡単な質問で、得た情報もこれらだけであるため	―

（5 サ）に対しても 3 名の被調査者は感謝を表出すると述べるが、2 名の被調査者は「ただ促されただけのように感じる」ため、感謝を表さないと言う。一方、会話（6 サ）では、注意されているように感じるため、被調査者 5 名とも感謝を表さないとしている。会話（7 サ）では、1 名の被調査者が感謝の言葉よりも「わかりました」の表現を使うとしているのに対して、もう 1 名の被調査者は感謝を述べても述べなくてもよいとしている。残りの 3 名の被調査者は感謝を述べるところではないとしている。

このように、会話（1 サ）～（8 サ）についての JNS 被調査者の理解と、感謝の表出についての認識は異なっており、その差を生じさせる要因の一つには、被調査者の意見からもわかるように、登場人物間の関係があると考えられる。従って、感謝場面を理解するには、場面についての情報を提供することが重要だと言えよう。

しかし、（1 サ）～（8 サ）は、感謝表現が一つも見られず、文型の「～たほうがいいです」の教育のみを重視し、助言をする段階で会話を終えている。尾崎ほか（2010）は、学習者に提示する会話が「終結部」まで完成したものにしなければならないと言う。ここから、『サチニ』でも終結部まで完成した形で会話を提示する必要があると言えよう。さらに、日本の教科書における会話場面との比較と、JNS 被調査者の意見を踏まえると、『サチニ』における助言やアドバイスを受ける全ての場面で、必ずしも感謝表現を載せる必要はないと考えられる。ただし、助言を受ける 8 つの会話を連続で掲載する場合、登場人物間の関係などの情報を十分提示した上で、適宜感謝表現も記すべきではないだろうか。8 つの会話のうち 1 つも感謝表現が見られないと、SLJL は助言を受ける場面では、感謝表現を使わないという誤解をしてしまう可能性も考えられるからである。

上述した『げんき』の会話（13 げ）は、医者にかかる場面設定であるため、以下では、『サチニ』における医者にかかってアドバイスを受ける会話（14 サ）について見ていきたい。

（14 サ） 医者 : どうしましたか。
病人 : 目が痛いです。
医者 : それはいけませんね。長い時間テレビを見ないでください。よく寝てください。
病人 : はい、そうします。
医者 : お大事に
出典 :『サチニ 1』第 9-3 課「宇宙人は目が大きいです」、会話練習、p.190.

（14 サ）でも会話を提示する前に、状況等の詳細な情報は記述されていないが、会話から、登場人物は医者と患者であることが推測できる。(14 サ)を『みんな』、『文化』、『げんき』の医者にかかる会話（15 み、16 文、13 げ）と比べると、日本の教科書では感謝表現が記載されているのに対して、『サチニ』の（14 サ）には感謝表現が見られない。

（15 み） 医者 : どうしましたか。
松本 : きのうからのどが痛くて、熱も少しあります。
医者 : そうですか。ちょっと口を開けてください。
・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
医者 : かぜですね。2、3 日ゆっくり休んでください。
松本 : あのう、あしたから東京へ出張しなければなりません。
医者 : じゃ、きょうは薬を飲んで、早く寝てください。
松本 : はい。
医者 : それから今晩はおふろに入らないでくださいね。
松本 : はい、わかりました。
医者 : じゃ、お大事に。
松本 : どうもありがとうございました。
出典 :『みんなの日本語初級 I 』第 17 課、会話、p.145.

（16 文）（レントゲン写真を見て）
医師 : ううん、骨に異常はありません。しっぷ薬を出しますから、毎日はりかえてください。
アルン : はい。とても痛いんですが…。
医師 : じゃあ、痛みどめの薬も出しますね。
アルン : あのう、すぐ治りますか。
医師 : 4、5 日でよくなると思いますが、もう少しかかるかもしれません。

アルン：そうですか。
医師　：治るまで激しい運動をしないでください。
アルン：先生、ジャワーを浴びてもいいですか。
医師　：ええ、シャワーはいいですよ。
アルン：そうですか。
医師　：では、おだいじに。
アルン：どうもありがとうございました。

出典『文化初級日本語Ⅰ』第 16 課「病院」本文、p.184.

（14 サ）では医者にかかった後、全ての JNS が感謝表現を述べると回答している（表 5）。日本の教科書にも同場面で被調査者と一致する形で、感謝表現が必ず見られる（15 み、16 文、13 げ）。これらのことから、『サチニ』の（14 サ）でも、終結部に感謝表現を記載する必要があると考えられる。

表 5『サチニ』の会話例（14 サ）についての JNS 被調査者の意見

被調査者	感謝を挟むか否か	その理由	挟む場所
A	挟む	「お大事に」と言われたその心遣いに対する感謝の気持ち	「お大事に」の後の病人発話
B	挟む	医者が患者を診るのは当然であるが、診ていただいたことへの感謝	「お大事に」の後の病人発話
C	挟む	診察してもらったことへの一言の感謝	「お大事に」の後の病人発話
D	挟む	お医者さんに診てもらったので	「お大事に」の後の病人発話
E	挟む	診断後は感謝表現を使うから	「お大事に」の後の病人発話

以下の（17 サ）は、登場人物「ラサンガー」が「サチニ」を映画に誘う『サチニ』の会話場面である。（17 サ）を日本で開発された教科書の「誘う」場面の会話（18 み、19 文、20 げ）と比較しよう。『みんな』では、教科書の初めに、登場人物の名前、職業、似顔絵、登場人物間の関係を記載している。同じく『文化』でも教科書の初めに主な登場人物の似顔絵、名前、職業などの情報と人物間の関係が記載されている。そのため、それぞれの会話に出てくる人物間の関係が容易に理解できる（18 み：友達関係、19 文：「佐藤武」は会社員で、「吉田良子」は大学生）。『げんき』の会話（20 げ）には、人物の情報や両者の関係についての説明はないが、状況や登場人物の年齢などを想像できるようなカラフルな挿絵が載っている。挿絵による情報提供は、（18 み）と（19 文）でも見られる。

（17 サ）　ラサンガー：サチニさん、日曜日、映画に行きませんか。

サチニ　：日曜日ですか。日曜日はちょっと…。月曜日までに数学の宿題をしなければならないんです。
ラサンガー：ああ、そうですか。じゃあ、火曜日はどうですか。
サチニ　：すみません。火曜日も都合が悪いんです。英語の勉強をしなければならないんです。
ラサンガー：じゃあ、土曜日はどうですか。
サチニ　：はい、土曜日は大丈夫です。土曜日に行きましょう。

出典：『サチニ 2』第 14-2 課「断るとき」、Use、p.35.

（18 み）小林　：夏休みは国へ帰る？
タワポン：ううん、帰りたいけど、……
小林　：そう。タワポン君、富士山に登ったことある？
タワポン：ううん、ない。
小林　：じゃ、よかったら、いっしょに行かない？
タワポン：うん。いつごろ？
小林　：8 月の初めごろはどう？
タワポン：いいよ。
小林　：じゃ、いろいろ調べて、また電話するよ。
タワポン：ありがとう。待ってるよ。

出典：『みんなの日本語初級 I 』第 20 課、会話「いっしょに行かない」、p.171.

（19 文）佐藤武　：良子さん、明日は暇ですか。
吉田良子　：ええ。
武　：あのう、新しい車を買ったんですが、ドライブに行きませんか。
良子　：わあ、いいですね。どこへ行きましょうか。
武　：良子さんの好きな所へ行きましょう。
良子　：じゃあ…、そうですね…、海を見に行きませんか。
武　：海ですか。じゃあ、江ノ島はどうですか。
良子　：いいですね。明日のお天気はどうでしょうか。
武　：天気予報によると、明日は晴れだそうですよ。
良子　：そうですか。明日も暑いでしょうか。
武　：ええ、たぶん暑いだろうと思いますよ。あのう、良子さんの弟さんもいっしょにどうですか。
良子　：弟ですか…。弟は友達と野球を見に行くと言っていましたから、行かないだろうと思います。
武　：そうですか。それは残念ですね。

良子　　：ええ、弟はまたこの次、誘ってください。
武　　：じゃあ、10 時ごろ良子さんのうちへ迎えに行きますね。
良子　　：ありがとうございます。楽しみにしています。

出典：『文化初級日本語Ⅰ』第 18 課　「ドライブに行きませんか」本文、pp.204-205.

（20 げ）メアリー　：たけしくん、今度の休み、予定ある？
たけし　　：ううん、別に。どうして？
メアリー　：みちこさんの長野のうちに行こうと思っているんだけど、一緒に行かない？
たけし　　：いいの？
メアリー　：うん、みちこさんが、「たけしくんも誘って」と言っていたから。
たけし　　：じゃあ、行く。電車の時間、調べておくよ。
メアリー　：ありがとう。じゃあ、私、みちこさんに電話しておく。

出典：『げんきⅡ』第 15 課「長野旅行」、p.74.

『サチニ』の会話（17 サ）では、登場人物間の関係が説明されておらず、挿絵も載っていない。従って、登場人物の「ラサンガー」と「サチニ」がどのような関係であるかがわかりにくく、場、状況設定などの情報提供も見られないため、日本の教科書と比べて場面も想像しにくくなっている。

一方で、日本の教科書の会話から、誘う側が誘いを具体化して申し出ているのに対して、誘われた側が「ありがとう」と感謝を表す様子が明確である。しかし、自分の日程を変更してまで相手を誘っている『サチニ』の（17 サ）では、感謝表現が全く見られない。

では、この会話についての JNS 被調査者の意見はどうだろう。表 6 からもわかるように、感謝を表出する 1 名、表出しない 3 名、表出してもしなくてもよいとする 1 名の JNS がいる。この 3 種類の意見の原因は、会話に出場する人物間の関係が明確ではない点にあるとも考えられる。

表 6『サチニ』の会話例（17 サ）についての JNS 被調査者の意見

被調査者	感謝を挟むか否か	その理由	挟む場所
A	挟む	時間を変更してまで誘ってくれて、嬉しいと言う気持ちを表したいから	サチニ：はい、土曜日は大丈夫です。ありがとう！…
B	挟んでも挟まなくても大丈夫	友達関係なので、感謝を挟めなくても支障はない	サチニ：誘ってくれてありがとう。はい、土曜日は大丈夫です。
C	挟まない	感謝を述べるべき点がない	―
D	挟まない	友達と遊ぶ約束をしているだけなので	―
E	挟まない	友達の間で遊ぶ約束の際に都合を合わせてもらった場合、感謝表現を使うが、この場合、ただ空いている時間を聞いているだけだから	―

日本の教科書の特徴及び被調査者の意見と照らし合わせると、（17 サ）の会話の流れや展開が多少異なっていることがわかる。例えば、日本の教科書では、相手の都合を確認したり理由を述べたりした上で誘いに入っているのに対して、（17 サ）はいきなり誘いから会話を開始する。日本の教科書は会話の終結部に感謝の言葉を入れているのに対して、（17 サ）ではそのような言葉が見られない。ここから、JNS と円満な人間関係を構築できるようなコミュニケーション能力を目指す場合、このような会話を根本的なところから改善する必要があると言えよう。

『サチニ』に見られる下記の会話（21 サ）は、「サチニ」が「中川先生」に日本の歴史を教えてもらう場面である。

（21 サ）サチニ　：中川先生、日本の歴史について質問してもいいですか。
中川　：はい、いいですよ。どんなことですか。
サチニ　：日本で米作りが始まったのはいつごろですか。
中川　：そうですね、だいたい、紀元前 200 年頃で、「弥生」という時代です。
サチニ　：そうですか。その頃、仏教も伝わったんですか。
中川　：いいえ、仏教はもっと後です。仏教が伝わった時代は大和時代と言います。
サチニ　：仏教は米作りより遅く伝わったんですね。
中川　：そうですよ。それで、次の奈良時代から仏教が日本中に広まりました。
サチニ　：さむらいもその頃からいたんですか。
中川　：いいえ、さむらいが出てくるのはまた、その次の時代の平安時代の後半です。

サチニ　：じゃあ、平安時代は日本中で戦いがたくさんあったんですね。
中川　　：うーん、そうですね。たくさんあったのは次の鎌倉という時代です。平安時代は平和な時代だったんです。紫式部という女の人が日本で一番古い小説を書きました。
サチニ　：そうですか。女の人が男の人より活躍した時代ですね。
中川　　：文学ではそうですね。でも、この時代の終わり頃になって、さむらいが出てきてあちこちで戦いが起ってきます。12 世紀の初めです。
サチニ　：その戦いはいつまで続くんですか。
中川　　：1603 年に徳川家康という人が江戸を政治の中心にする時までです。17 世紀の初めですからだいたい 500 年ぐらいでしょうね。
サチニ　：江戸時代もさむらいの時代ですか。どうして、戦いがなくなったんですか。
中川　　：いろいろな理由がありますが、それは徳川家康がこれまでの経験を生かして上手に政治を行ったということでしょうね。
サチニ　：そうですか。歴史って面白いですね。もっと詳しく勉強したくなりました。
中川　　：そうですか。頑張ってください。

出典：『サチニ 2』、第 16-2 課「歴史」、Use、pp.85-86.

上述した会話でも、登場人物の関係、場、状況設定などについての説明はないが、『サチニ』は高校生向けの教科書であるため、登場人物の「サチニ」は、高校生だと考えられる。「サチニ」が相手のことを「中川先生」と呼んでいるため、会話の相手は先生であることがわかる。会話の内容から、「サチニ」が先生に日本の歴史を教えてもらっていることも理解できる。このように、想像力を働かせることによって、登場人物間の関係や場などについて理解できるが、容易に場面を理解するには、何らかの形でこれらの情報を提供する必要があると言える。

では、（21 サ）を日本の教科書の会話と比較してみよう。日本の教科書には完全に似たような会話はないが、ここで、上述した『文化』の会話（11 文）をもう一度取り上げたい。（11 文）は、日本語学校に通う留学生の「ラフル」が卒業後の進路について先生に教えてもらう場面で、会話の終結部では、先生に対して感謝表現を示している。『みんな』の会話（22 み）では、「B」にパソコンの使い方を教えてもらい、会話の終結部に B に対する感謝表現が見られる。しかし、『サチニ』の（21 サ）では、

かなりの時間を割いて先生が「サチニ」の質問に答えているにもかかわらず、先生に対する感謝の表現は見られない。

（22 み） A : すみません。ちょっと教えてくれませんか。
B : ええ、何ですか。
A : この図を大きくしたいんですが、どうすればいいですか。
B : ここをクリックすればいいですよ。
A : そうですか。どうも。

出典 :『みんなの日本語初級Ⅱ』第 44 課、「この写真みたいにしてください」練習 C、p.159.

（21 サ）に対して JNS 被調査者の 4 名は、質問に詳しく答えてくれたので「ありがとうございます」と先生に感謝を示すと述べている。1 名の被調査者は、これが授業中の状況であれば感謝を述べないと言う。被調査者らの意見から、先生に対する感謝表現の必要性と同時に、場や状況設定などについての情報提供の重要性も理解できる。

『サチニ』には、（21 サ）以外にも相手から様々なことを教えてもらう会話がある（23 サ～ 26 サ）。一人の人がもう一人の人に、スーパーや店などの情報を教えてもらうこれらの会話でも、登場人物間の関係が不明であり、場、状況などの情報も見られない。そのため、会話に表れている言語表現が適切かどうかも判断しにくいと考えられる。すなわち、感謝を表すか否か、表すならどのような表現を選択するかという判断が難しい。

（23 サ） A : スーパーミヒリ※ はどうですか。
B : 広いですよ。
A : そうですか。じゃあ行きましょう。 （※スーパー名）

（24 サ） C :「フレッシュフルーツ」※ のりんごはどうですか。
D : 安いですよ。
C : そうですか。じゃあ、行きます。 （※店名）

（25 サ） E : さくら電気はどんなお店ですか。
F : 親切ではありませんよ。
E : そうですか。じゃあ、行きません。

（26 サ）　G : レストラン「ディルマ」はどんな料理ですか。
H : おいしいスリランカ料理ですよ。
G : そうですか。じゃあ、行きます。

出典 :『サチニ 1』第 4-2 課「この赤いりんごは高いです」、会話練習、p.79.

（23 サ）～（26 サ）が掲載されている課では、「人・物についてコメントを表現できる」ことを目的としている。そのためか、この課ではコメントをする側の表現が重視されており、コメントを受ける側の表現はあまり掲載されていない。その結果、会話が不完全な状態である。しかし、尾崎ほか（2010）によると、学習者に提示する会話の場合、「開始部」、「主部」、「終結部」といういずれも同等に重要であり、当該の課が目的としている文型のみではなく、会話全てに十分注意を払い、完成度の高い会話を提示する必要がある。

では、日本の教科書はどうだろう。『サチニ』と全く同じような場面設定ではないが、『みんな』では、「タワポン」が「鈴木」にスキーに行ける所について情報を教えてもらう場面がある（27 み）。ここでは、情報を教えてもらった後、「タワポン」が「鈴木」に対して感謝表現を使っている。つまり、会話の終結を表す意味でも、感謝表現が重要な役割を果たしている（熊取谷 1990）。

（27 み）タワポン : 鈴木さん、冬休みに友達とスキーに行きたいんですが、どこかいい所ありませんか。
鈴木　: 何日ぐらいの予定ですか。
タワポン : 3 日ぐらいです。
鈴木　: それなら、草津か志賀高原がいいと思いますよ。温泉もあるし……。
タワポン : どうやって行くんですか。
鈴木　: JR でも行けますが、夜行バスなら、朝着きますから、便利ですよ。
タワポン : そうですか、どちらが安いんですか。
鈴木　: さあ……。旅行会社へ行けばもっと詳しいことがわかりますよ。
タワポン : それからスキーの道具や服は何も持っていないんですが……。
鈴木　: 全部スキー場で借りられますよ。心配なら、旅行会社で予約もできるし…。
タワポン : そうですか。どうもありがとうございました。

出典 :『みんなの日本語初級Ⅱ』第 35 課、会話「どこかいい所、ありませんか」、p.77.

『サチニ』の会話（23 サ）～（26 サ）に対する JNS の意見は表 7 の通りである。表からもわかるように、多くの被調査者が、これらは感謝を表さない場面だと捉えており、感謝を表出するとしている JNS は、知らない情報を知ったことへのお礼とし

て感謝を述べている。

表 7『サチニ』の会話例（23 サ）～（26 サ）についての JNS 被調査者の意見

場面	被調査者	感謝を挟むか否か	理由
（23 サ）	A	挟まない	A も B も同じ意思を持っているため
	B	挟む	必要な情報を得ているため
	C	挟む	今まで知らなかった情報を教えてくれたため
	D	挟まない	スーパーがどこか聞いただけなので
	E	挟まない	簡単な受け答えであるため
（24 サ）	A	挟む	B から必要な情報を得ているため
	B	挟む	一方的に聞いた質問に答えてくれたため
	C	挟む	B から必要な情報を得ているため
	D	挟まない	リンゴがどうか聞いただけなので
	E	挟まない	簡単な受け答えであるため
（25 サ）	A	挟まない	状況による
	B	挟まない	
	C	挟まない	
	D	挟まない	
	E	挟まない	簡単な受け答えであるため
（26 サ）	A	挟まない	スーパーがどうか聞いただけだから
	B	挟まない	リンゴはどうか聞いただけだから
	C	挟まない	代わりに良い店を教えてもらったわけではないから
	D	挟まない	質問に答えてくれただけだから
	E	挟まない	簡単な受け答えであるため

（23 サ）～（26 サ）に対する JNS の意見が様々であるが、先行研究の指摘及び日本の教科書の会話例との比較を総合すると、これらの会話では、状況を理解するために十分な情報を提供することが重要であり、会話の終結部に感謝表現があっても問題はないと言えよう。

『サチニ』には「伊藤」が電話に出た「カスンの母」に伝言を頼む会話がある（28 サ）。この場面でも、登場人物間の関係や状況設定などの情報が不足しているため、「カスン」と「伊藤」はどのような関係にいるかなどを推測で考えるしかない。（28 サ）と似たような会話が『みんな』にもある。「ハンス」の母親「クララ」が担任の先生への伝言を担任ではない他の先生に頼む場面である（29 み）。『みんな』の（29 み）の最後に感謝表現が記載されているのに対して、『サチニ』の（28 サ）には感謝表現が記載されていない。

（28 サ）　伊藤　　：もしもし、カスンさんのお宅ですか。
カスンの母　：はい、そうですが…。
伊藤　　：ふじ高校の伊藤ですが、カスンさんをお願いします。
カスンの母　：カスンは今いませんが…。
伊藤　　：そうですか。じゃあ、伝言をお願いしたいんですが…。
カスンの母　：はい、いいですよ。
伊藤　　：今晩電話がほしいんですが…。電話番号は327－4576です。
カスンの母　：伊藤さんですね。電話番号は、327－4576。わかりました。
伊藤　　：よろしくお願いします。それでは、失礼します。
カスンの母　：さようなら。

出典：『サチニ 1』第 8-4 課「『は』『が』と『だけ』『から』」、Use D、p.172.

（29 み）　先生　　：はい、ひまわり小学校です。
クララ　：おはようございます。5 年 2 組のハンス・シュミットの母ですが、伊藤先生はいらっしゃいますか。
先生　　：まだなんですが……。
クララ　：では、伊藤先生に伝えていただきたいんですが……。
先生　　：はい、何でしょうか。
クララ　：実はハンスがゆうべ熱を出しまして、けさもまだ下がらないんです。
先生　　：それはいけませんね。
クララ　：それで今日は学校を休ませますので、先生によろしくお伝えください。
先生　　：わかりました。どうぞお大事に。
クララ　：ありがとうございます。失礼いたします。

出典：『みんなの日本語初級Ⅱ』第 49 課、「よろしくお伝えください」会話、p.197.

表 8『サチニ』の会話例（28 サ）についての JNS 被調査者の意見

被調査者	感謝を表す場所	理由
A	伊藤の最後の発話の冒頭に	生徒の母に面倒をかけてしまったこと、母に親切に対応していただいた嬉しさを表すための感謝
B	伊藤：「今晩電話がほしいんですが」の前に	伝言のお願いを受け入れてもらえたことに対するお礼
C	伊藤の最後の発話の冒頭に	伝言を伝えてもらうというお願いを承知してもらったことへの感謝
D	伊藤の最後の発話の冒頭に	伝言を頼んだため
E	伊藤の最後の発話の冒頭に	「お忙しいところすみません」と言って相手の負担に言及したいから

感謝を表す場所とその理由にはばらつきがあるものの、全ての JNS は、(28 サ) に対して、感謝を表す必要があると言う (表 8)。日本の教科書との比較と JNS の意見を総合的に参照すると、(28 サ) でも感謝表現を記載する必要があると考えられる。

下以では、『サチニ』に見られる会話 (30 サ) ～ (35 サ) を取り上げるが、これらに類似した会話を日本の教科書から見つけられないため、被調査者の意見を中心に検討していく。(30 サ) は、「ラーダ」が「アハマッド」に勉強する方法を聞いている場面である。表 9 からもわかるように、この会話に対して、1 名以外の全ての被調査者が感謝を表出しないと述べている。

(30 サ) ラーダ　　: アハマッド君、いつもどのようにして日本語の勉強をしていますか。
アハマッド : そうですね。毎日 2 時間は勉強するようにしています。
ラーダ　　: 毎日、2 時間ですか。すごいですね。
アハマッド : その日に習ったことをすぐ復習しなかったら、後で大変です。
ラーダ　　: そうですか。私もやってみます。

出典 :『サチニ 2』第 15-3 課「私が市長になったら」、Use、p.64.

表 9『サチニ』の会話例 (30 サ) についての JNS 被調査者の意見

被調査者	感謝を挟むか否か	理由
A	挟まない	理由なし
B	挟んでも挟まなくてもよい	ラーダが有益な情報を得ているため、そのことへの感謝 ※友達関係だから挟まなくても問題ない
C	挟まない	理由なし
D	挟まない	アハマッド君は自分がしていることを言うだけでアドバイスをしているわけではないため
E	挟まない	友達の間柄であるため

(31 サ) と (32 サ) は、「A」及び「B」の人物が日付や曜日を教えてもらう『サチニ』の会話で、登場人物間の関係、場、状況などに関する情報が見られない場面である。JNS 被調査者も、情報が足りないため、これらの場面では、感謝を表すか否か、どの表現にするかを決められないと言う。限られた情報の中であえて判断するならば、(30 サ) の場合、4 名の被調査者が感謝を表出しないとし、1 名だけが感謝を表出するとしている。(31 サ) は、ただの確認や受け答えであるため、全ての被調査者が感謝を表出しないと言う。こうした被調査者の判断から、既に『サチニ』にある通り、(30

サ）～（32 サ）には、感謝表現がなくても問題はないが、場面についての理解に必要な情報提供が見られないのは問題だと考えられる。

（31 サ）A：今日は何日ですか。
B：一日です。
A：今日は水曜日ですね。
B：いいえ、木曜日ですよ。
出典：『サチニ 1』第 5-1 課「休みはいつですか」、Use、p.98.

（32 サ）A：休みはいつですか。
B：来週の土曜日と日曜日です。
A：今月のポーヤデー※ は月曜日ですね。
B：はい、そうです。
※満月の日のこと。
出典：『サチニ 1』第 5-1 課「休みはいつですか」、Use、p.98.

『サチニ』の（33 サ）は、日本に留学している「ミヒリ」に同じクラスの「田中」が 2 学期の予定を説明する場面である。この会話に対して、3 名の被調査者が感謝を表出する、1 名の被調査者が感謝を表出しない、もう 1 名の被調査者が感謝を表出してもしなくても問題ないとしている（表 10）。

（33 サ）田中　：ミヒリさん、これは 2 学期の予定表です。2 学期は一番長くて、行事がたくさんあります。
ミヒリ：そうですか。
田中　：まず、もうすぐ球技大会があります。「球技」という言葉はわかりますか。
ミヒリ：いいえ。
田中　：バレーボールやバスケットボールなどのボールを使うスポーツです。
ミヒリ：ああ、野球の「球」と同じですか。
田中　：そうです。球技大会では、みんな自分の得意な球技をします。とても楽しいですよ。私はバレーボールに出ようと思っています。
ミヒリ：私はバスケットボール・・・。
田中　：球技大会の後に、中間テストがあります。月曜日から金曜日まで、1 週間毎日テストがあります。

ミヒリ : 大変そうですね。
田中　: ええ、だから、今から少しずつ勉強しておきましょう。その後は修学旅行です。
ミヒリ : 修学旅行？
田中　: ええ、2 年生がみんなで行く旅行です。今年は飛行機で北海道へ行くことになりました。最初の 2 日間は、街の中にあるホテルに泊まって、次の 2 日間は山の近くにある旅館に泊まります。スキーをすることもできます。
ミヒリ : わあ、スキー。楽しみですね。
田中　: ええ、それから、12 月にはマラソン大会があります。学校から海まで 10 キロ走ります。
ミヒリ : 私はマラソンをしたことがないんです。
田中　: 初めての人でも大丈夫ですよ。一緒にゆっくり走りましょう。そして、期末テストがあります。期末テストは 2 学期の最後のテストです。
ミヒリ : それが終わると、冬休みですね。
田中　: そうです。2 学期は忙しいけれど、楽しいこともたくさんありますから、頑張りましょう。

出典 :『サチニ 2』第 18-4 課「活動」、Speaking、pp.146-147.

表 10『サチニ』の会話例（33 サ）についての JNS 被調査者の意見

被調査者	感謝を挟むか否か	理由
A	挟む	予定を渡してくれた田中君の気遣いと嬉しさに感謝を表す
B	挟んでも挟まなくてもよい	ミヒリが説明を頼んでいるわけではないので、感謝を表さなくても問題ない ※長々と説明してくれているので、軽い感謝を入れても大丈夫
C	挟まない	理由なし
D	挟む	教えてくれたことに対する感謝の気持ちを表すため
E	挟む	田中はたくさん説明しており、二人の関係はそんなに親しいように感じないため

『サチニ』の（34 サ）は、絵を描いてくれるようにとの「カスン」の依頼を「ラーダ」が受け入れる場面である。この場面では、登場人物間の関係、場、状況設定などの説明は見られないが、挿絵があり、SLJL はこの二人を高校生だと想像するだろう。

（34 サ）　カスン　: その絵、とてもきれいですね。
シェーン : ラーダさんに描いてもらいましたよ。
カスン　: 本当ですか。上手ですね。

ラーダ：いえ、まだまだですよ。
カスン：ラーダさん、今度私にもきれいな絵を描いてくれますか。
ラーダ：いいですよ。どんなのがいいか教えてくださいね。
カスン：はい。お願いします。

出典：『サチニ 2』第 19-3 課「お礼のカード」、Use、p.167.

（34 サ）に対して 2 名の被調査者は、絵を描いてもらうことに対する礼として感謝を表出する、1 名は感謝を表出してもしなくてもよい、2 名は互いに友達同士であり、まだ実際に絵を描いてもらっていないため感謝を表出しないと言う（表 11）。これらの発話から、場面を理解し言語表現を発するか否かを決めるには、人物間の関係をわかることが重要な要素だと言える。

表 11『サチニ』の会話例（35 サ）についての JNS 被調査者の意見

被調査者	感謝を挟むか否か	理由
A	挟む	絵を描いてくれるため感謝
B	挟んでも挟まなくてもよい	友達同士であるため、感謝を挟まなくても問題ない ※今度絵を描いてほしいという要望を受けてくれているため
C	挟む	ラーダさんにわざわざ絵を描いてもらうことへの感謝
D	挟まない	まだ絵を描いてもらっていないため
E	挟まない	友達の間柄であるため

『サチニ』の（35 サ）は、一緒に買い物に行くように「伊藤」が「田中」を誘う会話で、(36 サ）は、「佐藤先生」が「カレン」の経験を尋ねる会話である。(37 サ）は、「ラサンガー」が「カスン」にクリケットの試合の結果を教えてもらう会話で、(38 サ）は「A」が「B」に週末にしたことを尋ねる会話である。

（35 サ）　伊藤：日曜日に買い物に行こうと思うんですが、田中さんは。
田中：私も買い物に行こうと思っています。
伊藤：じゃあ、一緒に行きませんか。
田中：いいですね。行きましょう。
伊藤：じゃあ、10 時に学校の前のバス停で会いませんか。
田中：いいですよ。

出典：『サチニ 2』第 17-4 課「何になろうと思っていますか」、Speaking、p.122.

（36 サ）佐藤先生 : カレンさん、日本でのホームステイはどうでしたか。
カレン : とてもよかったです。色々な経験をしました。
佐藤先生 : ホストファミリーはどんな家族でしたか。
カレン : お父さんと、お母さんと、お姉さんのみゆきさんと、弟のけんた君でした。みゆきさんは、私より年上で 17 歳でした。けんた君は、私より年下で 14 歳でした。
佐藤先生 : ホストファミリーとどんなことをしましたか。
カレン : スキーをしました。私は、初めてスキーをしました。長野に住んでいたので、お父さんに頼んで、スキーに連れていってもらいました。お母さんに聞いて、日本の料理を教えてもらいました。私はすきやきの作り方を覚えました。
佐藤先生 : へえ、すごいですね。食べ物はどうですか。
カレン : 日本の食べ物が好きになりました。日本へ行く前は、魚を食べられなかったのに、今は好きになりました。なっとうはまだ食べられませんが・・・
佐藤先生 : カレンさんは日本語がとても上手になりましたね。
カレン : そうですか。ありがとうございます。初めはみんなが何を話しているか、全然わかりませんでした。1 ヶ月間日本で生活できるかどうか、とても心配でした。初めてホストファミリーは、ジェスチャーをたくさん使ったり、絵を描いたりしてくれました。
佐藤先生 : ホストファミリーは、ジェスチャーや絵を使ったり、簡単な言葉で話したりしてくれたんですね。
カレン : ええ、初めは大変でしたが、毎日ホストファミリーと話をするのは楽しかったです。それで、少しずつ新しい言葉を覚えました。それから、ホストファミリーに、私の国についていろいろ聞かれました。ほとんど日本語で説明できました。
佐藤先生 : どんなことを聞かれたんですか。
カレン : 学校で何を勉強するか、週末は何をするか、毎日どんなものを食べるか・・・。それから、私の国の歴史や社会についても聞かれました。時々日本語で答えられなかったので、もっと勉強しなければならないと思いました。来年、ホストファミリーが私のうちに来るので、そのときはもっと上手に話したいです。

出典 :『サチニ 2』第 19-4 課「手紙を出したのに」、Speaking、pp.177-178.

（37 サ）　ラサンガー：カスン君、昨日クリケットの試合がありましたよね。
カスン　：そうですね。
ラサンガー：どのチームが勝ちましたか。
カスン　：クルネーガラから来たチームが勝ちました。
ラサンガー：そうですか。クルネーガラから来たチームですか。

出典：『サチニ 1』第 11-2 課「何ですか」、Practice、p.225.

（38 サ）　A　：週末はどうでしたか。
B　：とても楽しかったです。でも、とても疲れました。3 時間ぐらい歩きました。途中でお腹がすきました。持っていったお弁当をみんなで食べました。景色を見ながら食べたお弁当はとてもおいしかったです。
A　：一番上まで登りましたか。
B　：いいえ、途中までです。
A　：雪はありましたか。
B　：上にはありましたが、雪があるところまで行きませんでした。
A　：日本で一番高い山ですよね。
B　：はい、3776 メートルです。今度は一番上まで行きたいです。一緒に行きませんか。
A　：行きたいです。ぜひ誘ってください。

出典：『サチニ 1』第 12-3 課「有名なところ」、Use 、pp.246-247.

表 12『サチニ』の会話例（35 サ）～（38 サ）に対して JNS が感謝を表出しない理由

会話例／被調査者	会話例 35	会話例 36	会話例 37	会話例 38
A	二人とも一緒に買い物に行くため	経験を尋ねられ、答える場面であるため	まだ状況把握の段階だから	まだ決定事項ではないため
B	－同－	会話はカレンさんの希望で終わっているため	依頼や相談ではないただの質問だから	依頼・相談ではなく普通の会話のため
C	－同－	特に感謝を示すべき点がない	特に感謝を示すべき点がない	特に感謝を示すべき点がない
D	－同－	アドバイスをもらったり相談したりしているわけではないため	友達同士で試合の結果を教えてもらっているため	普通の会話であるため
E	互いの利害が一致しており、友達の間柄であるため	自身の経験を語るのみであるため	友達の間柄であるため	B は詳しい情報を伝えているだけであるため

（35 サ）～（38 サ）の会話の場合、登場人物間の関係、場、状況設定などの情報が不足していることが共通している。また、様々な理由ではあるが、これらの場面において、被調査者 5 名とも感謝を表す必要がないとしている（表 12）。これらの指摘から、(35 サ）～（38 サ）では、感謝表現が記載されなくても問題がないと考えられる。

『サチニ』の（39 サ）は、「カスン」が「サチニ」から試験に関する重要な情報を教えてもらう会話で、（40 サ）は、「渡辺」が「田中」に、自分の都合で次の日の待ち合わせ場所を変えてもらう会話である。これらの会話でも、登場人物間の関係、場、状況設定などの情報はないため、表現の適切性を判断しにくいと考えられる。

（39 サ） カスン : サチニさん、期末テストはいつですか。
サチニ : 来月の一日から十日までですよ。
カスン : そうですか。今日は十五日ですね。
サチニ : いいえ、十六日ですよ。後二週間だけです。
カスン : 日本語のテストはいつですか。
サチニ : 七日です。
カスン : 七日は月曜日ですね。
サチニ : はい、土曜日と日曜日はテストはありません。休みです。
カスン : じゃあ、土日に、よく勉強します。
サチニ : 二日だけで大丈夫ですか。カスン君、学校の休みに何をしますか。
カスン : 僕は親戚の家へ遊びに行きます。
サチニ : どこですか。コロンボですか。
カスン : いいえ、ヌワラエリヤですよ。
サチニ : あ、そうですか。私も家族と先週の土曜日、ヌワラエリヤへ行きました。
カスン : 先週、ヌワラエリヤではカーニバルがありました。行きましたか。
サチニ : もちろんですよ。とても楽しかったです。人が大勢いました。きれいな花とおいしい果物がたくさんありました。
カスン : 寒かったですか。
サチニ : そんなに寒くなかったですよ。
カスン : そうですか。よかったですね。僕も楽しみです。
サチニ : でも、テスト、頑張ってね。

出典 :『サチニ 1』第 5-4 課「一緒に買い物しませんか」、Speaking、p.114.

（40 サ）渡辺 : もしもし。

田中 : はい、田中です。
渡辺 : ひかり高校の渡辺ですが、のりおさんをお願いします。
田中 : 私です。
渡辺 : 明日の待ち合わせですが、場所を変えてもいいですか。
田中 : どこですか。
渡辺 : こだまデパートの 1 階の「さくら」という喫茶店です。
田中 : こだまデパートの「さくら」ですね。ええと、時間は…。
渡辺 :2 時です。
田中 :2 時に「さくら」ですね。わかりました。
渡辺 : じゃあ、また明日。
田中 : また明日。

出典 :『サチニ 1』第 8-4 課「『は』『が』と『だけ』『から』」、Use、p.171.

（39 サ）では、「カスン」が試験に関する重要な情報を教えてもらっているため、最後に言葉で感謝を表出するとしている被調査者が 4 名で、1 名は「当たり障りのないカジュアルな会話」であるため、感謝を表出しないとしている。（40 サ）では、「渡辺」が自分の都合で待ち合わせ場所を変更しているため、「ありがとう」で感謝を表す必要があると被調査者 5 名とも述べている。さらに、この場面では「すみません」という言葉も必要だと言う被調査者も 1 名いる。これらの意見から、（39 サ）と（40 サ）の最後においては、謝意を兼ねて感謝表現を記載する必要があると言えよう。

『サチニ』の (41 サ) は、「サチニ」と「ラーダ」の間での会話で、以上で見てきた通り、状況設定などの情報が見られない。そのため、感謝表現についても何も言えないとする被調査者が 3 名で、残りはたわいのない会話で感謝を表出しないとしている。

（41 サ）　サチニ : 日曜日何をしますか。
ラーダ : 新しい映画を見ます。
サチニ : 新しい映画を見てから何をしますか。
ラーダ : 新しい映画を見てからハンバーガーを食べます。
サチニ : ハンバーガーを食べてから何をしますか。
ラーダ : ハンバーガーを食べてから、買い物に行きます。
サチニ : 私も同じです。一緒に行ってもいいですか。
ラーダ : いいですよ。行きましょう。
サチニ : 日曜日何をしますか。
ラーダ : 図書館で勉強します。

サチニ : 図書館で勉強してから何をしますか。
ラーダ : 図書館で勉強してからテニスをします。
サチニ : そうですか。私は違います。それじゃあ、また、今度。
出典 :『サチニ 1』第 10-4 課「私に手紙をください」、Speaking B、p.214.

『サチニ』の（42 サ）は、「カスン」が選手としてプレイする試合を見に行くと、「サチニ」が「カスン」に伝える会話で、〈43 サ〉は、「ラサンガー」が「シェーン」に、「サユリさん」が誰かを教えてもらう会話である。

（42 サ） サチニ : カスン君、明日、クリケットの試合がありますね。
カスン : はい、サチニさん、見に来ませんか。
サチニ : もちろんです。友達、みんなで行きますよ。
カスン : あっ、そうですか。
サチニ : 今日はゆっくり休んでください。夜遅くまでテレビを見ないでくださいね。
出典 :『サチニ 1』第 9-2 課「夜遅くまでテレビを見ないでください」、Use、p.185.

（43 サ） ラサンガー : あの髪が長い人はサユリさんですか。
シェーン : 違います。サユリさんは髪が短い人ですよ。
ラサンガー : じゃあ、あの人は誰ですか。
シェーン : どの人ですか。髪の短い人が 2 人いますよ。
ラサンガー : あそこの茶色のスカートをはいて、黄色いブラウスを着ている人です。
シェーン : ああ、あの人ですか。あの人はニルミニさんです。サチニさんの友達です。
出典 :『サチニ 1』第 9-3 課「宇宙人は目が大きいです」、Practice、p.189.

これらの会話でも、登場人物の関係、場、状況設定などについての情報提供がない。（42 サ）の場合、被調査者 3 名が「カスン」の立場になって考え、友達が誘い合わせて試合を見に来ることに対する礼と、その嬉しさを表すために感謝を表出するとしており、2 名が感謝を表すべき理由はないとしている。（43 サ）の場合、情報交換の場面であるため、3 名は感謝を表出する必要がないとするが、2 名は丁寧に質問に答えてくれていることに対して感謝を表出すると述べている。このように、感謝表現の有無に差が生じる大きな理由は、登場人物間の関係や状況設定などについて十分な情報

がないからだと考えられる。

以上では、『サチニ』の感謝の言語表現が記載されていない会話例の情報を先行研究と参照し、さらに日本の教科書の類似した会話と比較してきた。また、感謝表現が見られないことについての JNS の意見も提示した。以下では、その結果をもとに、『サチニ』の問題点を検討しまとめる。

5.2 『サチニ』の会話例に見られる問題点

教科書を評価する場合、「目の前の学習者にとって必要なのは何か、という視点で教科書の中身を検討していくこと（Willis/ 青木 2003、p.241）」が重要である。しかし「残念なことが、『コミュニケーション重視の教科書です』と謳ってはいても、ただ単に与えられたフレーズや文型を使って行う対話練習があるだけで、本当の意味のコミュニケーション活動はほとんど見当たらない（Willis/ 青木 2003、p.241）」教科書が多い。これまで見てきた分析結果から、『サチニ』の感謝場面にも同様のことがある程度当てはまると考えられる。そのため、以下では、『サチニ』の感謝場面における問題点を示し、スリランカの日本語教育現場で教材開発･改善をする際に、コミュニケーション能力の育成を図る上で必要だと考えられる留意点を述べる。

① 場面を理解するにあたって、最低限必要とされる情報の欠落

会話場面を理解するには、登場人物間の関係、場、状況設定などの語用論的情報が重要である（松島 2003）。日本の教科書では、これらの情報や文脈を様々な箇所（教科書の最初、会話の冒頭など）で、様々な形（文字の説明、絵、図形による）で提示している。挿絵などを通して登場人物の性の役割などを教材に反映することができ（大場 2001）、『みんな』、『文化』、『げんき』の挿絵がインパクトも強い（足立 2006）。

やはり、語用論的情報や挿絵があると、場面を理解しやすくなるだけではなく、適切な言語表現も選択しやすい。逆に語用論的情報が不足すると、場面設定が不自然になり、場面についての理解も乏しくなり、適切な言語表現を表出しているか否かも判断できなくなる。結果的に不自然な会話になってしまう。『サチニ』には、語用論的な情報が不足しているだけではなく、挿絵も少なく、場面を理解しにくい個所が多くある。

従って、教科書中には、場面を理解するために必要な情報をわかりやすく記述する必要がある。その一つの方法として、登場人物間の関係を教科書の最初に設定しておいて、ストーリー性のある会話を作ることができる。適宜、挿絵を挿入することによって情報を提供することも重要である。

② 感謝表現が見られない会話の存在

ランブクピティヤ（2014a、2014b、2014c、2017）によると、感謝場面についての理解によって、SNS は口頭での感謝表現を控える傾向がある。例えば、店員が買い物に協力することが当然性の高い行為と認識すると、SNS は言葉での感謝を控えるストラテジーを採る（ランブクピティヤ 2017）。

これらのことから、SNS 教師によって作成された『サチニ』の会話例に、母語の影響は全くないと言い切れないだろう。それが一つの原因で、JNS なら感謝表現を示したり日本の教科書でも感謝表現が見られたりする場面でも、『サチニ』では感謝表現が見られないと考えられるだろう。例えば、（14 サ）では、診察を受けた後、患者が医者に対して感謝を表出していない。SNS が口頭での感謝を控えるというランブクピティヤ（2017）の指摘を踏まえると、医者が患者の診察をするのは当然性の高い行為であるため、（14 サ）は不自然ではない。ただし、これらは母語による影響かどうかを判断するには、JNS にしてもらったと同じように、『サチニ』の会話を SNS 及び SNS 日本語教師に提供し、当該の場面で感謝を表すか否か、表すならどのような表現かを調べたり、感謝以外の表現にも母語の影響があるか否かを明らかにしたりする必要がある。

『サチニ』において、感謝表現が掲載されていないもう一つの理由には、当該の課では、教授したい文法項目以外の言語表現を重視していないことが考えられる（例えば、〈1 サ〉、〈2 サ〉等）。その結果、会話が突然切れたり不自然になったり、語用論的観点から理解しにくくなったりするような問題が起きている。SLJL は日本語環境にいないため、教科書は会話の「開始部」、「主要部」、「終結部」を完全な形で、できるだけ多くの情報とともに提示すべきである（松嶋 2003）。

③ 感謝表現の様々な種類と機能を扱っていない

『サチニ』は、感謝の定型表現の「ありがとう類」のみに限っており、謝罪型の感謝表現（すみません類、ごめん類など）も含め、表現の多様性に欠けていると言える。しかし日本語の場合、謝罪型の表現も感謝場面で大きな役割を果たしており（三宅 1994）、人間関係、感謝を表す場、感謝の受け手に与えた負担などによって使用が異なる。一方で、SLJL が謝罪型感謝表現を十分に理解・使用できていないという指摘もある（ランブクピティヤ 2018）。日本にいない SLJL が教科書に頼ることも多いと考えられるため、『サチニ』に謝罪型表現を挿入することによって表現を多様化し、SLJL の学びを広げることが今後の課題である。

「終結部」の感謝表現には、会話の終了を表す標識としての機能がある（熊取谷

1990)。つまり、日本語の感謝表現は謝意以外の機能も果たしており、さらに感謝の対象となる行動が確定される前も使用される。一方で、スリランカでは確定された行動に対しても感謝の言語表現が現われない場合があり、強調しない限りこのような違いに気づかない SLJL もいるだろう。

上述してきた通り、『サチニ』では、「終結部」に感謝表現が記載されていない会話もあり、感謝表現が持つ謝意以外の機能や感謝に値する行為が確定する前に感謝表現が現われる会話もほとんど見られない。教科書を通して、SLJL にこれらの機能や場面を指導する必要があると言える。

④ コミュニケーション能力の育成に必要な全ての領域についての知識を重視していない

ネウストプニー（1995）によると、日本語教育では「社会文化能力」「社会言語能力」「言語能力」を育成すべきであり、このうち「社会文化能力」とは、目標言語を使う人々の特徴や言語パターンなどを知り、社会的、文化的、経済的行動がとれる能力である。同様に川上ほか（2004）もコミュニケーション能力の育成には、文法能力や言語知識だけでは足りず、言語をどのような場面でどのように適切に使うかという知識と技能（会言語能力)、意味のあるまとまりをもつ談話に関する知識とそれを産出する力(談話能力)、コミュニケーションを遂行するときにどのようなやり方をすればうまくいくかを考える知識と技能（ストラテジー能力）を含め、言語の適切な使い方についての知識を育成することが必要である。尾崎ほか (2010) は、円満なコミュニケーションには、社会言語能力が欠かせないため、日本の社会文化的習慣を心得ておくことが重要だと述べている。

これらは、コミュニケーション能力の育成を重視している『サチニ』を含む多くの教科書に対しても言えることである。上述した①～④の問題点を改善し、「社会文化能力」「社会言語能力」「談話能力」「ストラテジー能力」の育成に注意を払う必要がある。そのためには、『サチニ』の感謝場面における内容・活動を工夫・改善する必要があると考える。例えば、他の文型や学習項目と同じく、感謝表現を会話中に記すだけではなく、SLJL の実際の使用につながるように、感謝表現を課題として扱うことが重要である。

6.　おわりに

本調査では、現在、スリランカで開発され、使用中の教科書、『サチニ』における感謝表現が記載されていない場面とその会話を、先行研究の指摘を参照しながら語用論的な観点から分析し、さらに、それらの会話を日本で出版された教科書の類似した

会話と比較した。その際、当該の場面に関する JNS の意見も収集し、感謝表現の有無についての適切性を検討した。

これらの調査結果をまとめると、『サチニ』では、当該の場面を十分に理解するために必要とされる登場人物間の関係、場、状況設定などの語用論的な情報が不足していることが大きな問題であることがわかった。その他に、感謝型の表現のみに留まり謝罪型の感謝表現を提供していない、感謝表現が持つ謝意以外の機能を提供していない、会話が不完全な状態で終わってしまう、接触場面が少ないなどの課題も明確にした。これらの改善策として、人間関係などの情報提供、挿絵の挿入などによって、SLJL の場面についての理解を助けること、教科書中に感謝表現を課題として扱うこと、感謝表現の他の機能を提示することなどを提案した。

今後、『サチニ』の感謝場面と表現を SNS と SNS 日本語教師に提示し、場面についての理解、感謝表現の有無と選択について調べ、『サチニ』に母語の影響が見られるかどうかを検討したい。また、『サチニ』における他の文型にも本調査を広げ、教科書全体の分析を通して、改善策を提示したい。

謝辞

本論文は、2018 年度の日本語教育国際研究大会ベネチアで行った研究発表の一部に加筆修正をしたものです。発表の際に、貴重なご意見をくださった方々に感謝をいたします。

注

(1) スリランカは多民族国家である。シンハラ、タミール、ムワーは主な民族であり、そのうち、シンハラ民族はシンハラ語を母語としている。

(2) シンハラ民族に属していて、日本語を学んでいる SLJL。

(3) 中道ほか（1994）によると、感謝における課題とは、実際の場面において実現しようとする具体的な目標のことであり、方略とは課題を遂行するためにその場面で取る行動全体である。単位方略とは、方略を構成する単位となる慣習化された行動様式である。例えば、「わびるために声をかけるタイミングの選択、切り出しのことばに『申し訳ありません』『今朝は遅刻いたしまして』などのうち、どれを用いるか、上司の反応に応じて、黙って叱られるか言い訳するか等、方略はいくつかの段階に分けて考えるべきであり、その個々の手順を単位方略と呼ぶ（中道ほか 1994、p.48）」

(4) 中道ほか（1999）は、感謝表現も含めて「あいさつ」と呼んでいる。

(5) 等々力（2002）によると、文法を使いこなすために必要な文法外のコミュニケーションの能力は「社会言語能力」で、コミュニケーションと直接関係しないがコミュニケーションを成立させるに必要な社会の規範などについての能力は「社会文化能力」である。

(6) 参加者の言語や文化が異なる時に生まれ、異文化が接触する場面（『新版日本語教育事典』2005）。

(7) 語用論的能力とは、「話し手側からは文化的心理的社会的な要因に合わせて適切に聞き手に意図を伝える能力であり、聞き手の側からは聞いた表現の内容を話し手の意図として関連づけて解釈する能力（徐 2010、p.36）」である。

(8) 武田（2008）は、日本国内における 10 冊の初級総合教科書を①場所・場面、②コミュニケーション活動、③目標、④技能、⑤練習タイプという観点から分析している。足立（2006）は、大学などの教育機関で使用されている代表的な教科書として、『みんなの日本語初級』ⅠとⅡ、『新文化初級日本語』ⅠとⅡ、『初級日本語　げんき』ⅠとⅡを選択している。

(9) コミュニケーション能力とは、「文法能力以外に『いつ、だれが、だれに、何を、どのように表現するのか』などのコミュニケーションが起こる場面の知識も含め『適切に』コミュニケーションの目的が達成できる能力」であり、その「中には『言うか、言わないか』を判断する能力も含まれている」（『新版日本語教育事典』2005、p.342）。ちなみに同辞典によると、文法能力とは、言語を文法的に正しく理解・使用する能力で、その他に社会言語能力、談話能力、ストラテジー能力という領域の知識と技能もコミュニケーション能力に含まれる。

(10)「場」は、表現主体が認識する時間的・空間的な位置として規定されており、詳細には表現を行う経緯・文脈、状況や雰囲気などを含む「いつ・どこで・どんな状況で」を指す（蒲谷 2009）。

(11) 蒲谷ほか（1998）によると、コミュニケーション主体が表現意図を叶えるための表現上のひとまとまりは「文話」であり、文章と談話を総称したものである。

(12) 尾崎ほか（2010）は、会話の場合「何を話題とし、その話題をどのように導入、展開し、終結に導くかが指導のポイントになる」ため、会話の全体構造を大きく「開始部」、「主要部」、「終結部」に分け、この三部を含めた会話の展開は、「相手との関係、会話の内容、時と場所などに左右される」だけではなく、文化の違いによる影響も受けるとする。そのため、「学習者は日本語の談話展開スキーマを学ぶ必要がある」

と言う。「開始部」とは、「呼びかけ―応答、あいさつ―あいさつ、近況に関する質問―応答などの発話交換が現れる」会話の始まりの部分で、「終結部」とは、お互いにもう話すことがないということを確認する発話交換が現れる会話の最後である(尾崎ほか 2010)。

本調査における対象教科書

1. スリーエーネットワーク編著(2012)『みんなの日本語初級Ⅰ第 2 版 本冊』スリーエーネットワーク
2. スリーエーネットワーク編著(2013)『みんなの日本語初級Ⅱ第 2 版 本冊』スリーエーネットワーク
3. 文化外国語専門学校日本語科編著（2013）『文化初級日本語Ⅰ』凡人社
4. 文化外国語専門学校日本語科編著（2013）『文化初級日本語Ⅱ』凡人社
5. 坂野永理・池田庸子・大野裕・品川恭子・渡嘉敷恭子 (2011)『初級日本語げんきⅠ』ジャパンタイムズ
6. 坂野永理・池田庸子・大野裕・品川恭子・渡嘉敷恭子 (2011)『初級日本語げんきⅡ』ジャパンタイムズ
7. Research Centre for Japanese Studies, University of Kelaniya, Educational Publications Department, Sri Lanka (2013)『初級日本語総合教科書 12 年生 スリランカ 高校日本語 A レベル（Part 1）－サチニさんといっしょに－』
8. Research Centre for Japanese Studies, University of Kelaniya, Educational Publications Department, Sri Lanka (2014)『初級日本語総合教科書 13 年生 スリランカ 高校日本語 A レベル（Part 2）－サチニさんといっしょに－』

参考文献

(1) 青沼国夫（2009）「スリランカ日本語教材開発プロジェクト」『平成世界の日本語教育の現場から国際交流近々日本語専門家レポート』，国際交流基金 https://www.jpf.go.jp/j/project/japanese/teach/dispatch/voice/voice/minami_asia/srilanka/2009/report01.html (2020 年 10 月 08 日最終閲覧)

(2) 足立祐子（2006）「語学教科書とジェンダー・バイアス的な表現について」『新潟大学国際センター紀要』2 号，pp.27-42.

(3) 大場美和子（2001）「教材における無意識の情報―性役割の視点から―」『日本語教育方法研究会誌』第 8 巻 1 号，pp.24-25.
(4) 尾崎明人・椿由紀子・中井陽子（2010）『会話教材を作る』関正昭・土岐哲・平高史也編，スリーエーネットワーク
(5) 川上郁雄・鳥谷善史（2004）『改訂新版／日本語教師養成シリーズ 6　異文化理解と情報』佐治圭三・真田信治編，東京法令出版
(6) 蒲谷宏・川口義一・坂本恵（1998）『敬語表現』，大修館書店
(7) 熊取谷哲夫（1990）「日本語の『感謝』における表現交替現象とその社会言語学的モデル」『表現研究』第 52 号，表現学会，pp.36-44.
(8) 岸晴苗（2011）「海外（スリランカ）における日本語教育実習」『名古屋大学大学院　国際言語文化研究科日本言語文化専攻 2011 年度日本語教育実習報告書』鷲見幸美編，pp.6-31.
(9) 徐燕（2010）「日中中級日本語総合教科書の比較分析―語用論的技能養成という視点から―」『比較社会文化研究』第 28 号，九州大学大学院比較社会文化学府，pp.35-42.
(10) 社団法人日本語教育学会編（2005）『新版日本語教育事典』，大修館書店
(11) 武田聡子（2008）「国内における日本語教育 : 総合教科書から見える日本語」『国立国語研究所内部報告書平成 19 年度成果普及セミナー報告書　生活者にとって必要な「ことば」を考える』，国立国語研究所，pp.43-62.
(12) 等々力哲（2002）「言語と社会－初級日本語教科書の中の場面分析－」『信大日本語教育研究』第 2 号，信州大学，pp.142-158.
(13) 中道真木男・土井真美（1994）「日本語教育における感謝の扱い」『日本語学』第 145 号，明治書院，pp.47-54.
(14) 中道真木男・石田恵里子（1999）「日本語学習者と『あいさつ』―日本語教育の場で」『国文学―解釈と教材の研究―』第 44 巻 6 号　pp.118-125.
(15) 西香織（2006）「感謝に対する応答の指導について―日本語教育の視点から―」『人文』第 30 号，鹿児島県立短期大学人文学会，pp.25-41.
(16) ネウストプニー、J.V.（1995）『新しい日本語教育のために』，大修館書店

(17) 松嶋縁（2003）「中国のビジネス日本語教科書における待遇表現の扱われ方―教科書の分類と教科書中の『待遇表現』の扱われ方―」『別科日本語教育』第 5 号，大東文化大学別科論集，pp.55-66.
(18) 三宅和子（1994）「日英対照研究―文化・社会を反映する言語行動―」『日本語学』第 13 巻第 8 号，明治書院，pp.10-18.
(19) 宮岸哲也（2000）「スリランカ A レベルの日本語読解教科書に関する諸問題―その評価、使用状況、及び改善について」『国語国文論集』第 30 号，安田女子大学日本文学会国語国文論集編集室，pp.1-8.
(20) ランブクピティヤ，S.M.D.T.（2014a）「日本語母語話者とスリランカ人シンハラ語母語話者の感謝表現ストラテジーの傾向」『比較文化研究』111 号，日本比較文化学会，pp.195-208.
(21) ランブクピティヤ，S.M.D.T.（2014b）「日本語母語話者とスリランカ人シンハラ語母語話者の感謝場面における『場』の要素についての理解と感謝表現」『言語文化学会論集』42 号，言語文化学会，pp.95-116.
(22) ランブクピティヤ，S.M.D.T.（2014c）「日本語母語話者とシンハラ語母語話者の感謝場面における『人間関係』についての理解と感謝表現―ロールプレイを中心に―」『日本語教育』158 号，日本語教育学会，pp.112-129.
(23) ランブクピティヤ，S.M.D.T.（2017）「日本語母語話者とスリランカ人シンハラ語母語話者の感謝場面における『当然性』についての理解及び感謝表現ストラテジー」『言語文化学会論集』49 号，pp.105-123.
(24) ランブクピティヤ，S.M.D.T.（2018）「スリランカ人日本語学習者の感謝場面についての理解及び感謝表現の特徴」『言語文化教育研究学会 第四回年次大会 予稿集』，pp.179-180.
(25) Willis, Jane/ 青木昭六（2003）『タスクが開く新しい英語教育―英語教師のための実践ハンドブック―』，　開隆堂